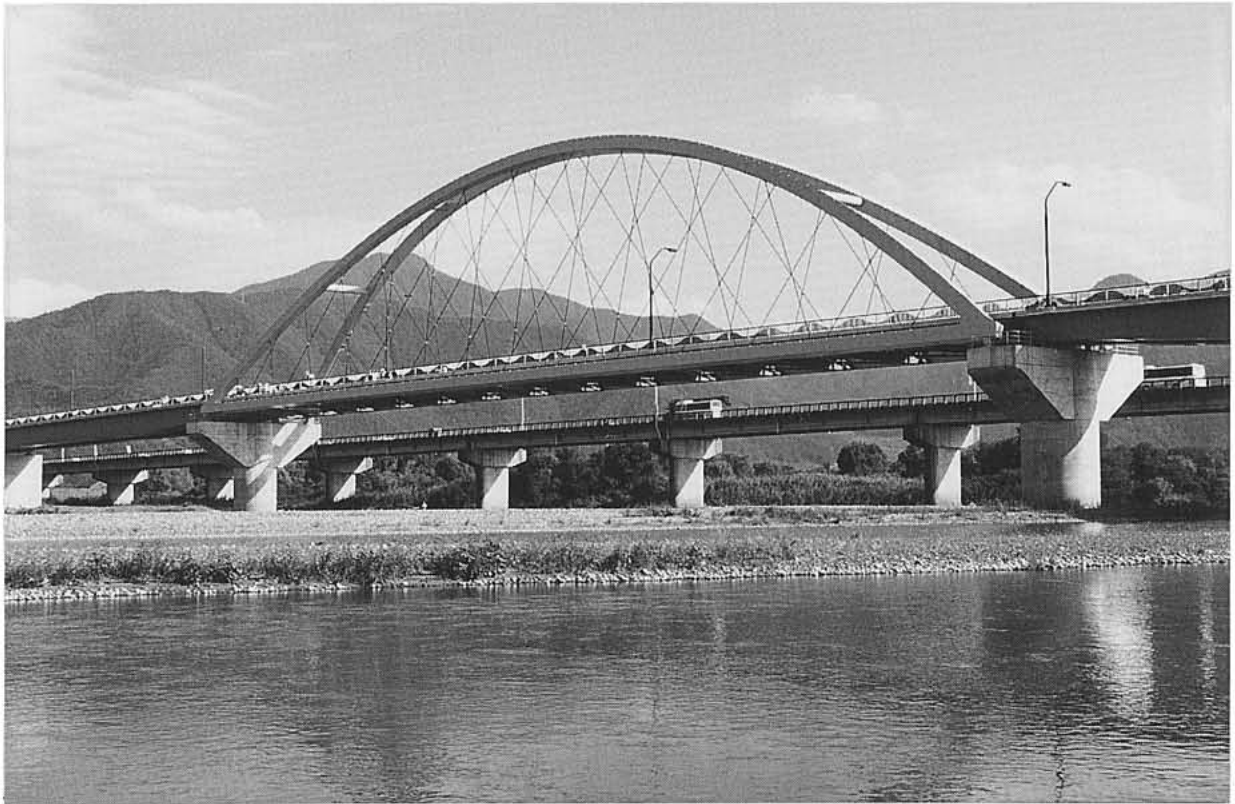


『架ける』

“さいきょう会ねっとわーく”

第2号 Vol.2 1997.7



写真：屋島橋：長野オリンピックの玄関口（増田 高志）

ランドマークとしての橋

長年高速道路づくりをしていて感じる事は、高速道路には地域の個性が感じ取れないという事である。良く見れば時代の差で東名高速と名神高速は多少雰囲気が違うのは確かである。今やどの高速道路も遮音壁に閉ざされ景色が見えない。仙台在住の時東京への移動途中、利根川に架るトラス橋が東京に近づいた事を感じさせたことが、今も心に残っている。単調に成りがちな高速道路ではこの様なランドマークになる橋梁が運転者に重要なインパクトと潤いを与えている。中でもアーチ、トラス、吊橋等に代表される中・下路橋がその役割を果たしている。適切に計画された特徴ある橋梁は、地方色を出すばかりでなく、地域のシンボルともなる。広重は版画で、街道には地方それぞれに特長となる景色を表現している。現代は道路空間の中で橋梁が重要であると思う。橋梁形式は外景観だけでなく、内景観をもっと大事にした計画が必要であると考えている。中・下路形式の橋梁は、豊かな表情を醸し出す道路空間の創造と地域の質の高い個性を演出するには欠かせない。明日の橋を架ける為、今の仕事に携われ、本当に楽しいと感じている。

(第4期 関口 武一)

[ときめき] 新たに橋を作るとき [ゆめ]

1952年に初めて列車が走る橋の設計をした。僅か10.7mの下路鉸桁だったが、自分が設計し、図面を引いた橋に列車が本当に通る事を考えると、初仕事の[ときめき]よりは[おそれ]の方が先に立った。25年後、鹿児島本線折尾駅のホームからそれを見下ろし、立派に務めを果たしているのを見てほっとしたものである。

これまで自分で設計し、或いは組織の一員として関わり、また委員会に参加したり、昨今ではアドバイザーとして裏方として関わる橋もあるが、新たに橋の設計に掛かるとき、それに夢を託し、心のときめきを覚えるのは、45年余経った今でも同じだ。そして納得のいく橋になるかどうかの恐れもまた相変わらずである。さらに加えて、橋が出来上がり、あるいは時を経ていくにしたがっての反省がそれに加わっていく。

今回の見学となる多摩中流部の6橋は、委員長として夢を懸けた橋である。また工事が進むに従っての反省も無いことはない。尽きない橋相手の暮らしである。

(顧問 田島 二郎)

社会人となって

私は、今年の春に埼玉大学院を卒業して首都高速道路公団で働くことになり、4月の1カ月間の研修を終えた後、東京第二保全部設計課に配属になりました。

首都高は昭和37年末に京橋から芝浦までの約4.5kmが開通し、路線の延長などにより現在では総延長247.8kmとなりました。そのうちの約50%の路線が開通後約20年以上経過しており、その上を1日115万台の自動車やトラックが利用しています。当然、高架橋の老朽化、また、車両による路面の破損も生じてきます。保全部は、これらの破損などに対し高速道路の機能を正常に維持していくための保守・点検、補修、改良工事などを行って行く部署です。扱っている工事も、多種多様でありそれをどの様に対処していくか、という方法も様々であります。今現在の自分では1人で仕事を任された時に適切な処置を考えつくとは思えませんが、1年2年後には1人前に仕事をこなしているものと自分を信じてやっていきたいと思えます。

(第27期 山崎 俊樹)

オランダの橋のご紹介

96年5月から10ヶ月間、オランダのデルフト工科大学に行っていました。すっかり親蘭派となった私としてはオランダの橋梁を紹介したいと思えます。

まずはエラスムス橋 (Erasmusbrug)。ロッテルダムのマース川 (ライン川ですがここではこのように呼ばれています) に架かる斜張橋です。非常にユニークなタワーの形状をしておりロッテルダム市の新しいシンボルとなっています。開通式にはオランダの女王も参加した盛大なセレモニーが行われました。この橋の約500m上流には、同じく斜張橋のWillemsbrug (かつてはロッテルダムマラソンのコースとして有名な橋) や跳ね橋のKoninginebrug (直訳すると女王の橋) もあります。ちなみに橋名はオランダの誇る人文主義者 Desiderius Erasmus [1466か69～1536] にちなんだものです。

これ以外にも、アーネム (Arnhem) には映画「遠すぎた橋」で有名な Jhon Frostbrug があります。この橋の名前は英空軍の空挺師団の中佐の名前をとって改名されました。

(第15期 奥井 義昭)

道路保全技術センター橋梁構造部

昨年、6月より(財)道路保全技術センター橋梁構造部に出向しており約1年が経過した。部のメンバーは建設省、橋建協、PC建協、建コン協等より出向しており各々2年で戻るため、半数が入れ替わった。この紙上をお借りして部の主な業務の紹介をさせていただきます。

①橋梁点検技術講習会の開催—橋梁点検の技術向上と点検成果の質を高める事を目的として平成6年度より毎年実施。すでに750名が受講している。

②耐震補強関連—道路局の要望により「復旧仕様」に関する「耐震設計相談窓口」を設け、500以上の質問を受け付けた。また、昨年は現場実証試験を含む壁式RC橋脚の耐震補強の自主研究を行った。

③車両の大型化対応—25T対応の補修・補強委員会の成果として「応力頻度測定要領(案)」や各種補強マニュアルを作成した。

④道路構造物保全研究会—計測診断、設計、施工、調査及び解体の5つの部会と13の委員会を設け、保全に関する技術の研究・開発・技術情報の交流等を行っている。また、昨年は欧州調査団を派遣しセバン橋管理事務所等で意見交換を行った。

(第2期 八巻 英郎)

悪夢からの復興

被災者の方々は何度夢であれど思ったことだろうか、平成7年1月17日阪神・淡路大震災。

震災から1週間後、急遽被害を受けた高速道路の復旧要員となり、以降現在まで中国自動車道の震災復旧工事に携わることになった。赴任して最初に見た現場は、震度7の洗礼を受け、実験供試体のようにせん断破壊した橋脚や傾いた橋脚、散乱する支承の部材など、夢ではなく現実の世界であった。

かろうじて落橋をまぬがれた桁を仮受し、とにかくも開通できたのは震災から10日後だった。その後2年余りの時間を要したが、この春には高架橋の震災復旧工事を完了することができた。この間橋の仕事とはいえ、新設で「架ける」ような華やかな現場と違い、桁下の狭いヤードでの橋脚RC巻立てや供用下のため慎重にジャッキアップしながらの支承交換など、どちらかといえば縁の下での地味な作業であったが、貴重な経験をすることができた。

被災地は今も至る所に仮設住宅が残るが、関西特有の持ち前の明るさで、着実に復興の道を歩んでいる。震災復旧に少しでも関係した者として、被災地の一日も早い復興を願っている。

(第13期 紫桃 孝一郎)



エラスムス橋

ニューヨーク自転車紀行（予定）

ニューヨークへの旅行を決意した。それはマンハッタン橋、ブルックリン橋の両橋を見ること、これだけが目的である。私にとってのニューヨークといえばイースト川にかかるこの両橋が何とんでもメインである。ブルックリン側から橋をはさんで摩天楼を眺める。これはニューヨークを表す風景写真によく出てくることからニューヨークという都市を象徴するものであることがうかがえる。

ついでに市内見物を行うが、ニューヨークでは交通手段として「自転車」を利用したい。現地でも自転車を購入し、それを交通手段とし、ニューヨーク市内を周遊する。確かに名物の地下鉄やバスを利用する方が時間もかからないと思うが、せっかく観光に来たのに「地下」にもぐってしまうのはもったいないしバスでただ途中を「通過」してしまうのはつまらない。最近自転車ツーリングを始めた私はこれからどこの観光地へ行くにもこの観光方法をとるつもりである（ただし購入はしない）。これで市内の光景をある程度は見ることはできるし、有名どころを見逃すことはまずなくなる。せっかくアメリカに来たのならもっといろいろなところを見て回った方がいいのではという向きはあるが、自分はこれで十分。皆さんもいかがでしょうか。

来年の「架ける」の表紙は、私の撮る「ブルックリン橋」の写真で飾りましょう（?）。

（第24期 柳川 博之）

今、「高価なトンネル」に恋しています。

さいきょう会のみなさんこんにちは。首都高速道路公団に勤めて、12年目を迎えました鶴田です。

首都高速道路の構造と言うと、殆どの方が「高架」構造をイメージされることと思いますが、今、都心部に建設中の路線は、「高価なトンネル」構造です。これは、環境対策、防災空間の確保等、世の中のニーズに配慮したためです。しかし、トンネルの工事単価は、高架のそれの実に4倍以上のお金がかかります。その一方で、利用者のみなさまからは、「極力料金値上げをしないで渋滞を解消してほしい」との絶大なる応援(?)を頂いております。

この相矛盾する命題に対応するためには、計画段階から技術者がコスト意識を持って、脳みそに汗をかくことが必要となります。ある本に、脳を活性化するための「カキケコ」というのがありました。

「カ」＝「感動」、「キ」＝「興味」、「ク」＝「工夫」、
「ケ」＝「健康」、「コ」＝「恋」

さいきょう会のみなさんも、「健康」にも配慮した「トンネル」に「興味」を持ち、「恋」心を抱いて、「工夫」しながら近づいてみると、大きな「感動」が得られるのではないのでしょうか。

（第16期 鶴田 和久）

ゆめが現実

現在、2径間連続PC斜張橋としては日本一の新猪名川大橋の建設に携わっています。工事は着々と進み、主桁架設長は200m中約160mになっています。本橋がこのような順調に進捗しているのも、ゆめを現実のものにしてきた新しい試みをいくつか実施してきたからです。

例えば、過密に配置された鋼材が橋脚と主桁と交錯し、前例にない複雑な大規模なPCコーベル構造の主塔受け梁部の施工を河川占有条件により濁水期間内に施工しなければなりません。通常施工では工期内に施工することは夢のまた夢でした。

そこで、近接の場所であらかじめ地組した鉄骨・鉄筋ブロックを、300トンクローラクレーン2台を用いて一括架設し、積み木を重ねるように順次積み上げ施工を行いました。これにより、通常施工期間の約半分の3カ月で施工することができ、夢のような急速施工が実現しました。

新しい発想で、みんなで力を合わせて諦めずに挑戦すればゆめはゆめでなくなります。

そのために従来の方法に拘らず、常に挑戦する柔軟な頭を持ちたいものです。

（第17期 山内 丈樹）

私の夢

入社して一年が過ぎ、ようやく会社にも慣れてきました。振り返るとこの一年は仕事に追われる毎日でした。何をしているのか自分でもよく解らないまま、ただ機械的に仕事をこなしてきました。(自分ではこなしたと思っているのですが・・・) いまだにコンサルタント業というものが何であるかすら解っていません。入社した頃よく、「高い技術力を身につけてください。」と言われましたが、少しは身に付いているのでしょうか？

夢・希望について書いてくださいという原稿の依頼でしたので、できれば今の仕事を続けていく上での夢や希望について書きたかったのですが、現在の状況下にあっては夢を持つのは少し難しいようです。とりあえず夢をもてるようになるのが夢であるといったところでしょうか。これから数々の仕事に携わっていくなかで多くのことを学び、自信と余裕を持って仕事に取り組めるようになる頃には、何か夢といえるものにめぐり会っているかもしれません。その時にはぜひまたこの紙面を借りて報告させてもらいます。

(第26期 荒川 千穂)

コントラクト・ブリッジ

「コントラクト・ブリッジ」というゲームをご存知でしょうか。私の周りは、ブリッジといえば橋ではなく、このゲームをさします。

これがなかなか面白いゲームで今は私もハマっています(うまくはありませんが)。海外では結構有名らしくプロまでいると聞いています。また日本にも協会があり、将棋、囲碁に次ぐものだそうです。

4人で行うゲームで、麻雀とは違い2人組になって対戦します。カードを4人に配り13枚のカードをルールに従い(基本的に同じマークを出す)1枚ずつ出し合い一番大きい数(エースが一番強く絵札の順です)を出した人が勝ちとなるゲームです。最初は13回中何回勝つか宣言をし、宣言以上に勝てば勝ち、負ければ相手側の勝ちとなります。(勝てば点数が貰える)。親を順々に行うので4回やって1セットとなり最後に点数が多い組が勝ちとなります。宣言の方法にもルールがありこれを覚えるのが結構大変ですが、覚えるととても面白いゲームです。

興味のある方、またメンバーが一人足りないときには、お声をおかけください。

(第20期 三村 幸正)

写真解説

表題：屋島橋／冬季長野オリンピックの玄関口

表紙写真の「屋島橋」は、千曲川に架かる支間長125.8mのバスケットハンドル型ニールセンローゼ桁です。上信越自動車道須坂長野ICの西に位置し、1998年長野オリンピックの玄関口として注目を集めています。近隣には、長野市長の“ミズスマシ”発言で有名になったスピードスケート場(Mウェーブ)やメディア村も建設されています。高さ49.2mの鉄塔を用いたケーブルクレーン斜吊工法による架設は、県土木部からも注目され、架設現場見学会の実施や架設工事の記録映画も製作されるなど、橋梁事業理解とイメージアップにも一役買いました。

私は、架設時精度管理作業で、入社1年で初めて現場に10日ほど行きました。気温の安定する夜間にケーブル張力とキャンバーを計測、調整量を計算した後、翌日調整作業、そして夜間計測と、かなり大変な作業でした。また、現場に行く前も、実鋼重、実剛度で解析をやり直した前準備にも苦労しました。高速道路からも白いアーチが見えるので近くに行く機会があったら見て下さい。

(第27期 増田高志)



事務局からのお知らせ

次期会長の候補者を探しております。自薦・他薦を問いません。事務局まで。また、積極的な写真や原稿の応募をお待ちしております。応募&新規会員の申込先は下記のさいきょう会事務局まで。

編集後記

会報も第2号となり、今回は「ゆめ」「ときめき」をキーワードに投稿をお願い致しました。前号に引き続き皆さんの多種多様な投稿を頂くことができ感謝しています。次号の企画、今後のさいきょう会の活動に対する提案を募集しています。

(第18期 岡安)

事務局代表

栗本鐵工所 橋梁設計部

東京設計課 赤尾 圭二

TEL 03-3436-8311 FAX 03-3436-8135

無断転載を禁じます。

9707200